



園だより

10月号

新宿区立西戸山幼稚園 令和7年9月30日発行

はばたけ！地球の子どもたち

園長 佐藤 淳穂

「応援団の集まる時間は9時50分です」朝の集まりで年長組の子どもたちが今日の予定を確認していました。「9時50分と言われても時計はわからないでしょう？」私が横から口をはさむと、「わかるよ！」と一斉に子どもたちから反論が飛んできました。ホワイトボードの「9じ50ふん」の文字の横には時計の絵がありました。長針と短針が9と10の数字を指して「9時50分」を表しています。実際には、時計を読める子もいれば、まだ正確には理解できていない子もいると思いますが、時計という便利な文明に出合うよい機会でしょう。年長組は今頃になると1秒、1分、10分、1時間、一日…と時間の感覚が備わってきて、昨日、今日、明日、明後日、一週間…と時間の流れや見通しがもてるようになってきています。そういう意味では、「今」を生きている3歳児とはまったく違う世界観になっているのです。



運動会を2週間後に控えて、すみれ組はこれまでの園生活とは明らかに異なる暮らしをしています。「運動会」という大きなプロジェクトに向かって「計画を立てて動くこと」そして随時、「予定を見直していくこと」の必要性に迫られているのです。昨年の運動会を思い出した子どもたちには、憧れのリレーや応援団、チアダンス、司会などを今度は自分たちがやってみたいというイメージが湧いていました。応援団を選んだ子どもたちは、時間になると、ひとまず自分の遊びを終えて（中断して）集まり、振りや並び方を考えています。「手の動きが揃っていないよ」「声が小さかった」と課題を出し合って、また次の予定を決めるというわけです。

幼児期は時間を忘れて遊びに没頭することが重要で、園ではその暮らしを保障するため、いわゆる時間割はありません。好きなことに夢中になり、興味の幅が少しずつ広がって、就学が近づく頃には、友達と「忍者屋敷をつくろう」「動く車をつくりたい」と共通の目的に向かう喜びを感じられるようになってきます。まさに、今がその時。運動会の取り組みでは友達と一緒にだからこそその充実感を感じる経験が待っています。そのプロセスの中で、すみれ組は、自分の体を操るだけでなく、観客へのメッセージを考えたり、道具を運んだりとあらゆる場面で総合的に活躍しています。時間を意識しながら行動することもその一つ。これらの経験の積み重ねは小学校生活へつながっていきます。

今年の運動会のテーマは「はばたけ！ちきゅうのなかまたち」。園庭から巣立つ小鳥やトンボたちを地球の仲間を感じながら、伸びゆく子どもたちを応援したいと思います。